

『今を生きる』

京都府

京都寺田剣友会洗心館

中学2年 中小路貫太

この春、おじいちゃんは、僕に大事な事を気付かせてくれました。

3月27日、おじいちゃんが亡くなりました。稽古の時は厳しく、稽古が終わると、とても優しい僕の大好きなおじいちゃんでした。また、生涯剣道を通じて学んだことを、僕にたくさん教えてくれました。

おじいちゃんが亡くなる少し前に、中学校のある大会がありました。おじいちゃんが病気だったことは分かっていたので、「僕が頑張って元気にするんだ！」という思いで稽古に取り組んできました試合の前日、おじいちゃんから「どんな時も、我慢するんやぞ。」と力強く言われました。家に帰って、その意味を考えなおしてみました。最初は、試合運びの中で、我慢するのだと思っていましたが、この我慢は、苦しい時でもくさらずに、一生懸命頑張ることだと分かりました。おじいちゃんのように、病気で苦しくて、今は大好きな剣道ができなくても、今おかれている状況の中で、一生懸命頑張ることが大切だと伝えてくれた事に気付きました。これから僕が生きていく中でつらい時や苦しい時、又楽しい時等色々あると思いますが、おじいちゃんが伝えてくれた、今おかれている状況の中で、精いっぱい頑張っていこうと心に思いました。

又、こんな出来事でも、おじいちゃんは僕に思いを伝えてくれました。それは、おじいちゃんが教える道場の記念大会での出来事です。主治医の先生や、家族のみんなが出席することを反対しましたが、おじいちゃんだけは「絶対に行くんや！」と、家族の説得を聞いてくれませんでした。しかし、おじいちゃんの強い意思に負けて、大会に出席することになりました。この時の、おじいちゃんの体の状態は、とても悪く、立つことすら、難しい状態でした。本当ならば、絶対に行けない状態なのに、行くと決めたら病気すらも跳ね除ける姿を見せてくれました。その姿は、常日頃、僕に教えてくれていた「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も」を、体をもって示してくれました。

しかし、おじいちゃんはこの3日後に亡くなってしまいました。とても悲しかったです。天国に行けるように、しっかりとお見送りしよう決めました。お葬式には、おじいちゃんが剣道で知り合った人がたくさん来てくれました。その一人一人が、とても悲しそうな顔をして、お見送りする姿を見て、その一人一人と深い絆があったのだと感じました。また、火葬場へ向う時に、一人の先生がついてきてくれました。その先生が、僕に「君のおじいちゃんは、とても優しく、みんなから愛されていたよ。」と教えてくれました。剣道で出来た絆は、一生の宝になると、気付きました。このような事においても、常日頃教えてくれていた「交剣知愛」という事の大切さを気付かせてくれました。僕も、この「交

剣知愛」という事を、大切にできる剣士になれる様に、日々を過ごしていきたいです。おじいちゃんが僕に伝えたかったこと、それは、剣道の世界はもちろん、これからの人生を歩んでいく中でも大切な事だと気付きました。おじいちゃんが教えてくれた「今おかれている状況の中で、精いっぱい頑張れる人」に成長するため、今を生きる喜びと感謝の気持ちを持って、今日という日を大切にしていきたいです。おじいちゃんの思いを胸に刻みます。「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、為さぬは人の為さぬなりけり」